

# 論壇

## 米国民が保護主義支持

トランプ大統領の下で、米国の通商政策は保護主義的な色彩を強くしている。米国が中国に仕掛けた貿易戦争は、中国経済に被害をもたらすだけでなく、日本のような近隣諸国にも大きな悪影響を及ぼしている。工業製品などの対中輸出が減ってきているが、これが日本の景気の先行きに不安感をもたらしている。

トランプ大統領が出てくる前は、これほど激しい貿易戦争は起きていなかった。米国の保護主義化はトランプ大統領の個人的な性向に強く依存していると考えられることが多い。実際、大統領に就

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

任する前の大統領選挙の時期から、トランプ氏は保護主義的な主張を繰り返していた。もしトランプ大統領の個人的な見方が保護主義的政策に色濃く反映されているのであれば、大統領が代われば、米国の保護主義も是正されることになる。残念ながら、そうした楽観的な見方はできない。そもそも、なぜトランプ大統領が選挙で選ばれたのだろうか。それは、多くの国民が保護主義的な政策を求めたからだ。グローバル化が進む中で、国民の中にそれに対する不満が増大してきた。中国からの輸入の拡大で自分が働いていた工場が閉鎖されて、職を失った。そうした経験

## 広がるポピュリズム

をした人は、輸入を制限するような関税引き上げに賛成するだろう。外国人労働者が多く入ってきて不安を感じる人は、移民の規制を訴える候補に投票しようとする。グローバル化が進む中で、それに反発して保護主義的な考えに傾く国民が増える。政治はそうした

今、世界的にポピュリズムが広がっている。英国ではEUからの離脱を国民投票で決めたが、これはポピュリズムの性格の強い動きだった。欧州の多くの国でも移民に対する反感からポピュリズム的色彩を強く持った政党が議席を伸ばしている。

## 政治選択は二極化傾向

このように見ると、米国の保護主義的な動きは、トランプ大統領の個人的な資質というより、米国民の意識の変化がその底流にあると考える方がよさそうだ。

トランプ後の米国の政治を考えるときに当たっても、ポピュリズムの影響が残ると考えるべきなのだろう。米国では2020年の大統領選挙が迫ってきて、民主党の候補の間で論戦が繰り広げられて

いる。そうした中で、エリザベス・ウォーレン候補のように、左派に近い主張で評価を上げている候補もいる。日本の感覚で言えば、国民皆保険や富裕層への増税などは当たり前のように思えるが、米国の政治で言えば、相当に左へ寄った主張である。そして、左派はトランプと同様かそれ以上に保護主義的な政策を支持している。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。